

フィリピン株式オープン

運用報告書(全体版) 満期償還

(償還日 2022年8月22日)
(作成対象期間 2022年2月23日～2022年8月22日)

★当ファンドの仕組みは次の通りでした。

| | | |
|--------|---|---|
| 商品分類 | 追加型投信／海外／株式 | |
| 信託期間 | 2017年8月23日～2022年8月22日 | |
| 運用方針 | 信託財産の成長をめざして運用を行ないます。 | |
| 主要投資対象 | ベビーファンド | フィリピン株式マザーファンドの受益証券 |
| | フィリピン株式マザーファンド | イ. フィリピンの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式(上場予定および店頭登録予定を含みます)。 ロ. フィリピン企業のDR(預託証券) |
| 組入制限 | ベビーファンドのマザーファンド組入上限比率 | 無制限 |
| | ベビーファンドの株式実質組入上限比率 | |
| | マザーファンドの株式組入上限比率 | |
| 分配方針 | 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益(評価益を含みます。)等とし、原則として、基準価額の水準およびポートフォリオの流動性等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。 | |

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

当ファンドは、フィリピンの株式に投資し、信託財産の成長をめざしており、信託期間中につきましてもそれに沿った運用を行ないました。ここに、謹んで運用状況と償還の内容をお知らせいたします。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、お願い申し上げます。

大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号
お問い合わせ先(コールセンター)
TEL 0120-106212
(営業日の9:00～17:00)
<https://www.daiwa-am.co.jp/>

最近 5 期の運用実績

| 決算期 | 基準価額 | | | MSCIフィリピン指数 (配当込み、円換算) | | 株式 組入比率 | 株式 先物比率 | 純資産 総額 |
|---------------------|----------|------------|-----------|---------------------------|-----------|------------|------------|-----------|
| | (分配落) | 税込み 分配金 | 期中 騰落率 | (参考指数) | 期中 騰落率 | | | |
| | 円 | 円 | % | | % | % | % | 百万円 |
| 6 期末 (2020年 8 月24日) | 6,859 | 0 | △ 17.7 | 8,023 | △ 15.4 | 96.2 | — | 1,948 |
| 7 期末 (2021年 2 月22日) | 7,642 | 10 | 11.6 | 9,124 | 13.7 | 94.2 | — | 1,700 |
| 8 期末 (2021年 8 月23日) | 7,588 | 0 | △ 0.7 | 8,967 | △ 1.7 | 96.2 | — | 1,320 |
| 9 期末 (2022年 2 月22日) | 8,711 | 0 | 14.8 | 10,516 | 17.3 | 94.9 | — | 1,073 |
| 償還 (2022年 8 月22日) | 7,942.12 | — | △ 8.8 | 10,796 | 2.7 | — | — | 472 |

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注2) MSCIフィリピン指数 (配当込み、円換算) は、MSCI Inc. (「MSCI」) の承諾を得て、MSCIフィリピン指数 (配当込み、フィリピン・ペソベース) をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCIフィリピン指数 (配当込み、フィリピン・ペソベース) は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。

[<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>]

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 株式および株式先物の組入比率は、マザーファンドの組入比率を当ファンドベースに換算したものを含みます。

(注6) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。



運用経過

基準価額等の推移について



■ 基準価額・騰落率

設定時：10,000円

償還時：7,942円12銭 (既払分配金10円)

騰落率：△20.5% (分配金再投資ベース)

■ 基準価額の主な変動要因

フィリピン株式に投資した結果、基準価額は下落しました。フィリピン・ペソの対円での上昇(円安)はプラス要因となったものの、フィリピン株式市況の下落がマイナス要因となりました。くわしくは「設定以来の投資環境について」をご参照ください。

フィリピン株式オープン

| 年 月 日 | 基 準 価 額 | | M S C I フィリピン指数 (配 当 込 み、 円 換 算) | | 株 式 組 入 比 率 | 株 式 先 物 比 率 |
|---------------------|------------|--------|---------------------------------------|--------|----------------|----------------|
| | | 騰 落 率 | (参 考 指 数) | 騰 落 率 | | |
| (期 首) 2022年 2月22日 | 円 8,711 | % — | 10,516 | % — | % 94.9 | % — |
| 2 月 末 | 8,587 | △ 1.4 | 10,327 | △ 1.8 | 95.0 | — |
| 3 月 末 | 8,935 | 2.6 | 10,810 | 2.8 | 95.1 | — |
| 4 月 末 | 8,986 | 3.2 | 10,819 | 2.9 | 95.3 | — |
| 5 月 末 | 8,837 | 1.4 | 10,747 | 2.2 | 95.8 | — |
| 6 月 末 | 8,189 | △ 6.0 | 10,023 | △ 4.7 | 96.2 | — |
| 7 月 末 | 7,958 | △ 8.6 | 9,856 | △ 6.3 | 0.3 | — |
| (償 還) 2022年 8月22日 | 7,942.12 | △ 8.8 | 10,796 | 2.7 | — | — |

(注) 騰落率は期首比。

設定以来の投資環境について

(2017. 8. 23 ~ 2022. 8. 22)

■フィリピン株式市況

フィリピン株式市況は下落しました。

フィリピン株式市況は、当ファンド設定時から2018年初めにかけて、税制改革の進展や政府のインフラ投資を好感して、上昇しました。その後11月にかけては、米中貿易摩擦が警戒される中で、インフレ率上昇や経常赤字拡大への懸念などから軟調な推移となりましたが、年末にかけては、米国の早期利上げ打ち止め観測を背景とした新興国からの資金流出懸念の後退などを受けて、値を戻す展開となりました。2019年は、中間選挙におけるドゥテルテ大統領派の圧勝や米国およびフィリピンの利下げ期待が高まった局面では上昇したものの、米中通商協議に対する警戒感や香港情勢の緊迫感が高まった局面では下落するなど、方向感のない展開となりました。2020年は3月にかけて、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大やマニラ首都圏の都市封鎖措置などを嫌気して下落しましたが、その後はフィリピン政府や中央銀行による経済対策を受けて反発したほか、秋以降はワクチンの普及による世界経済の正常化期待を背景に上昇しました。2021年は、米国長期金利の上昇懸念などから下落して始まったものの、その後は持ち直す展開となりました。2022年初めから償還期末にかけては、ウクライナ情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰や米国の金融引き締め加速懸念などが嫌気され、下落しました。

■為替相場

フィリピン・ペソは対円で上昇しました。

フィリピン・ペソは、当ファンド設定時より上昇して始まったものの、2018年に入ると、輸入増加による貿易赤字拡大への懸念などから下落（円高）しました。2018年4月から2019年末にかけては、フィリピン中央銀行の利上げ姿勢への転換などを背景に、緩やかな上昇基調で推移しました。2020年初めは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大懸念から下落したものの、すぐに持ち直しその後は小動きとなりました。2021年前半は、米国長期金利の上昇などを背景に円安米ドル高が進行する中、フィリピン・ペソも対円で上昇しました。その後、フィリピンにおける新型コロナウイルス感染拡大が嫌気され対円で下落する場面もあったものの、年末にかけてはワクチン接種の進展や経済活動の正常化期待から反発しました。2022年は、日米の金融政策の乖離や金利差拡大を受けた急速な円安米ドル高の進行を背景に、フィリピン・ペソも対円で上昇しました。

信託期間中の運用方針

■当ファンド

フィリピン株式マザーファンドの受益証券を通じて、フィリピンの株式に投資することにより、信託財産の成長をめざして運用を行います。

■フィリピン株式マザーファンド

当ファンドの運用にあたっては、個別企業選択を重視し、長期的な利益成長性が高いと見込まれる銘柄を中心に投資して、ポートフォリオを構築します。

信託期間中のポートフォリオについて

(2017. 8. 23 ~ 2022. 8. 22)

■当ファンド

フィリピン株式マザーファンドの受益証券を通じて、フィリピンの株式に投資することにより、信託財産の成長をめざして運用を行いました。

■フィリピン株式マザーファンド

当ファンドの運用にあたっては、個別企業選択を重視し、長期的な利益成長性が高いと見込まれる銘柄を中心に投資して、ポートフォリオを構築しました。

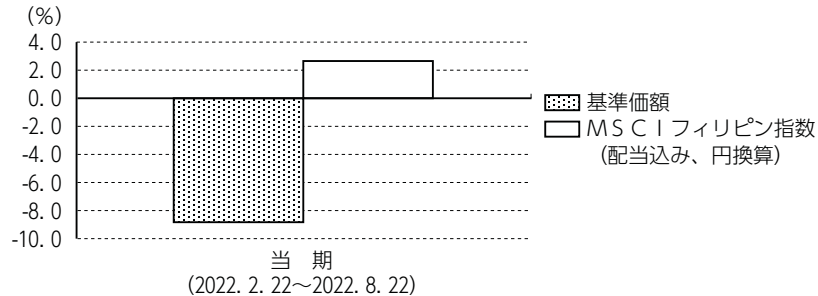
セクター別では、銀行や不動産事業などを傘下に持ち、中長期的にフィリピン経済の高成長を享受できると見込まれる複合企業を中心に資本財・サービスセクターや、貸出残高の拡大が期待される銀行大手を中心に金融セクターを高位に組み入れました。

個別銘柄では、中間所得層の消費拡大の恩恵を受ける不動産大手の SM PRIME HLDGS（不動産）、不動産開発で長年にわたる実績を持つ AYALA LAND INC（不動産）などを高位に組み入れました。

ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

以下のグラフは、当作成期における当ファンドの基準価額と参考指数との騰落率の対比です。



分配金について

1万口当り、第7期10円の収益分配を行いました。第1期～第6期、第8期～第9期の収益分配につきましては、基準価額の水準や収益状況等を勘案し、見送らせていただきました。

受益者のみなさまにおかれましては、当ファンドをご愛顧いただき厚く御礼申し上げます。今後とも証券投資信託の運用につきましては、受益者のみなさまのご期待に沿えますよう万全を期して努力する所存でございますので、一層のご愛顧を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

1 万口当りの費用の明細

| 項 目 | 当 期 (2022. 2. 23~2022. 8. 22) | | 項 目 の 概 要 |
|---------------|----------------------------------|----------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| 信 託 報 酬 | 75円 | 0. 889% | 信託報酬＝当作成期中の平均基準価額×信託報酬率 当作成期中の平均基準価額は8, 481円です。 |
| (投 信 会 社) | (37) | (0. 436) | 投信会社分は、ファンドの運用と調査、受託会社への運用指図、基準価額の計算、法定書面等の作成等の対価 |
| (販 売 会 社) | (37) | (0. 436) | 販売会社分は、運用報告書等各種書類の送付、口座内での各ファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| (受 託 会 社) | (1) | (0. 016) | 受託会社分は、運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| 売 買 委 託 手 数 料 | 31 | 0. 366 | 売買委託手数料＝当作成期中の売買委託手数料／当作成期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (株 式) | (31) | (0. 366) | |
| 有 価 証 券 取 引 税 | 55 | 0. 652 | 有価証券取引税＝当作成期中の有価証券取引税／当作成期中の平均受益権口数 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金 |
| (株 式) | (55) | (0. 652) | |
| そ の 他 費 用 | 13 | 0. 159 | その他費用＝当作成期中のその他費用／当作成期中の平均受益権口数 |
| (保 管 費 用) | (7) | (0. 082) | 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 |
| (そ の 他) | (7) | (0. 077) | 信託事務の処理等に関するその他の費用 |
| 合 計 | 175 | 2. 067 | |

(注 1) 当作成期中の費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、項目の概要の簡便法により算出した結果です。

(注 2) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

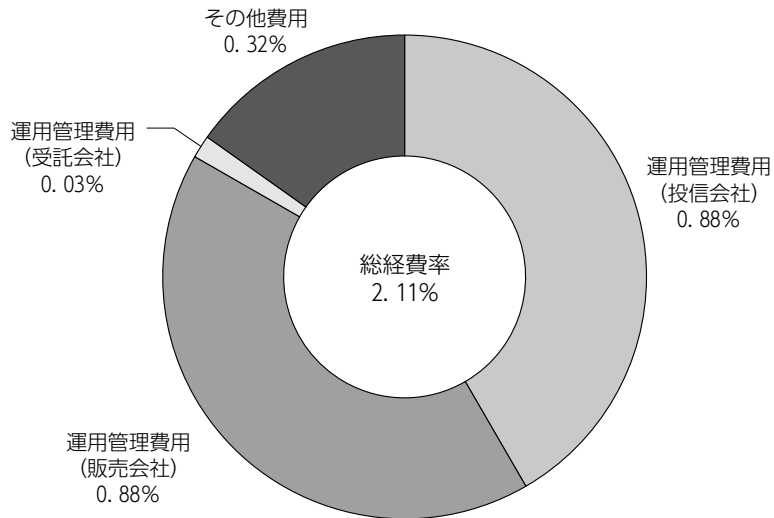
(注 3) 各比率は1万口当りのそれぞれの費用金額を当作成期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、小数点第3位未満を四捨五入してあります。

(注 4) 組み入れているマザーファンドがある場合、売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当該マザーファンドが支払った金額のうち、このファンドに対応するものを含みます。組み入れている投資信託証券（マザーファンドを除く。）がある場合、各項目の費用は、当該投資信託証券が支払った費用を含みません。なお、当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当りの費用の明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。

参考情報

■ 総経費率

当作成期中の運用・管理にかかった費用の総額を、期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当り）を乗じた数で除した総経費率（年率）は2.11%です。



(注1) 1万口当りの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。

(注2) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注3) 各比率は、年率換算した値です。

フィリピン株式オープン

■売買および取引の状況

親投資信託受益証券の設定・解約状況

(2022年2月23日から2022年8月22日まで)

| | 設 定 | | 解 約 | |
|----------------|-------|-------|-----------|-----------|
| | □ 数 | 金 額 | □ 数 | 金 額 |
| | 千口 | 千円 | 千口 | 千円 |
| フィリピン株式マザーファンド | 1,093 | 1,000 | 1,132,569 | 1,000,048 |

(注) 単位未満は切捨て。

■株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

(2022年2月23日から2022年8月22日まで)

| 項 目 | 当 期 | |
|---------------------|----------------|--|
| | フィリピン株式マザーファンド | |
| (a) 期中の株式売買金額 | 951,422千円 | |
| (b) 期中の平均組入株式時価総額 | 786,677千円 | |
| (c) 売買高比率 (a) / (b) | 1.20 | |

(注1) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注2) 単位未満は切捨て。

■利害関係人との取引状況等

当作成期中における利害関係人との取引はありません。

■組入資産明細表

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

親投資信託残高

| 種 類 | 期 首 | |
|----------------|-----------|----|
| | □ 数 | 千口 |
| フィリピン株式マザーファンド | 1,131,476 | |

(注) 単位未満は切捨て。

■投資信託財産の構成

2022年8月22日現在

| 項 目 | 償 還 時 | |
|--------------|---------|-------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| | 千円 | % |
| コール・ローン等、その他 | 495,225 | 100.0 |
| 投資信託財産総額 | 495,225 | 100.0 |

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年8月22日現在

| 項 目 | 償 還 時 |
|-------------------|---------------|
| (A) 資産 | 495,225,212円 |
| コール・ローン等 | 495,225,212 |
| (B) 負債 | 22,617,946 |
| 未払解約金 | 14,608,738 |
| 未払信託報酬 | 8,009,008 |
| 未払利息 | 200 |
| (C) 純資産総額 (A - B) | 472,607,266 |
| 元本 | 595,064,684 |
| 償還差損益金 | △ 122,457,418 |
| (D) 受益権総口数 | 595,064,684口 |
| 1万口当り償還価額 (C / D) | 7,942円12銭 |

* 期首における元本額は1,232,670,186円、当作成期間中における追加設定元本額は2,343,900円、同解約元本額は639,949,402円です。

* 償還時の計算口数当りの純資産額は7,942円12銭です。

* 償還時の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は122,457,418円です。

■損益の状況

当期 自2022年2月23日 至2022年8月22日

| 項 目 | 当 期 | |
|-----------------------|-----|-------------|
| (A) 配当等収益 | △ | 615円 |
| 受取利息 | | 287 |
| 支払利息 | △ | 902 |
| (B) 有価証券売買損益 | △ | 37,722,013 |
| 売買益 | | 26,840,907 |
| 売買損 | △ | 64,562,920 |
| (C) 信託報酬等 | △ | 8,009,008 |
| (D) 当期損益金 (A + B + C) | △ | 45,731,636 |
| (E) 前期繰越損益金 | △ | 84,395,254 |
| (F) 追加信託差損益金 | | 7,669,472 |
| (配当等相当額) | (| 355,635) |
| (売買損益相当額) | (| 7,313,837) |
| (G) 合計 (D + E + F) | △ | 122,457,418 |
| 償還差損益金 (G) | △ | 122,457,418 |

(注1) 信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しております。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。

(注3) 投資信託財産（親投資信託）の運用の指図に係る権限の全部または一部を委託するために要する費用：2,112,932円（未監査）

投資信託財産運用総括表

| 信託期間 | 投資信託契約締結日 | 2017年8月23日 | | 投資信託契約終了時の状況 | |
|----------|----------------|----------------|----------------|--------------|--------------|
| | 投資信託契約終了日 | 2022年8月22日 | | 資産総額 | 495,225,212円 |
| 区分 | 投資信託 契約締結当初 | 投資信託 契約終了時 | 差引増減又は 追加信託 | 負債総額 | 22,617,946円 |
| | | | | 純資産総額 | 472,607,266円 |
| 受益権口数 | 100,000,000口 | 595,064,684口 | 495,064,684口 | 受益権口数 | 595,064,684口 |
| 元本額 | 100,000,000円 | 595,064,684円 | 495,064,684円 | 1単位当り償還金 | 7,942円12銭 |
| 毎計算期末の状況 | | | | | |
| 計算期 | 元本額 | 純資産総額 | 基準価額 | 1単位当り分配金 | |
| | | | | 金額 | 分配率 |
| | 円 | 円 | 円 | 円 | % |
| 第1期 | 10,248,133,895 | 10,258,490,772 | 10,010 | 0 | 0.00 |
| 第2期 | 10,608,314,858 | 9,304,728,667 | 8,771 | 0 | 0.00 |
| 第3期 | 6,306,086,392 | 5,877,775,125 | 9,321 | 0 | 0.00 |
| 第4期 | 3,956,435,846 | 3,446,061,563 | 8,710 | 0 | 0.00 |
| 第5期 | 3,242,193,735 | 2,703,276,811 | 8,338 | 0 | 0.00 |
| 第6期 | 2,840,772,660 | 1,948,566,467 | 6,859 | 0 | 0.00 |
| 第7期 | 2,225,680,179 | 1,700,895,849 | 7,642 | 10 | 0.10 |
| 第8期 | 1,740,416,575 | 1,320,626,277 | 7,588 | 0 | 0.00 |
| 第9期 | 1,232,670,186 | 1,073,721,267 | 8,711 | 0 | 0.00 |

(注) 1単位は受益権1万口。

償還金のお知らせ

1万口当り償還金

7,942円12銭

フィリピン株式マザーファンド

運用報告書 繰上償還 (償還日 2022年8月19日)

(作成対象期間 2022年2月23日～2022年8月19日)

フィリピン株式マザーファンドの運用状況をご報告申し上げます。

★当ファンドの仕組みは次の通りでした。

| | |
|--------|---|
| 運用方針 | 信託財産の成長をめざして運用を行いません。 |
| 主要投資対象 | イ. フィリピンの金融商品取引所上場株式および店頭登録株式（上場予定および店頭登録予定を含みます。） ロ. フィリピン企業のDR（預託証券） |
| 株式組入制限 | 無制限 |

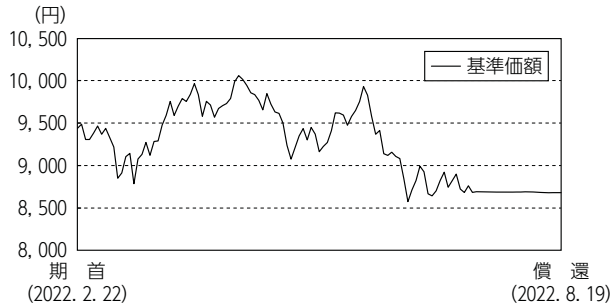
大和アセットマネジメント

Daiwa Asset Management

大和アセットマネジメント株式会社
東京都千代田区丸の内一丁目9番1号

<https://www.daiwa-am.co.jp/>

■ 当作成期中の基準価額と市況等の推移



| 年 月 日 | 基準価額 | | MSCI フィリピン指数 (配当込み、円換算) | | 株 式 組 入 比 率 | 株 先 式 物 比 率 |
|----------------|----------|------------|-------------------------------|------------|-------------------|-------------------|
| | 円 | 騰落率 (%) | 騰落率 (参考指数) | 騰落率 (%) | | |
| (期首)2022年2月22日 | 9,440 | — | 10,516 | — | 95.4 | — |
| 2月末 | 9,308 | △ 1.4 | 10,327 | △ 1.8 | 95.5 | — |
| 3月末 | 9,702 | 2.8 | 10,810 | 2.8 | 95.6 | — |
| 4月末 | 9,771 | 3.5 | 10,819 | 2.9 | 95.9 | — |
| 5月末 | 9,623 | 1.9 | 10,747 | 2.2 | 96.3 | — |
| 6月末 | 8,927 | △ 5.4 | 10,023 | △ 4.7 | 96.7 | — |
| 7月末 | 8,687 | △ 8.0 | 9,856 | △ 6.3 | 0.3 | — |
| (償還)2022年8月19日 | 8,680.11 | △ 8.0 | 10,677 | 1.5 | — | — |

(注1) 騰落率は期首比。

(注2) MSCIフィリピン指数(配当込み、円換算)は、MSCI Inc. (「MSCI」)の承諾を得て、MSCIフィリピン指数(配当込み、フィリピン・ペソベース)をもとに円換算し、当ファンド設定日を10,000として大和アセットマネジメントが計算したものです。MSCIフィリピン指数(配当込み、フィリピン・ペソベース)は、MSCIが開発した指数です。同指数に対する著作権、知的所有権その他一切の権利はMSCIに帰属します。またMSCIは、同指数の内容を変更する権利および公表を停止する権利を有しています。本ファンドは、MSCIによって保証、推奨、または宣伝されるものではなく、MSCIは本ファンドまたは本ファンドが基づいているインデックスに関していかなる責任も負いません。免責事項全文についてはこちらをご覧ください。
〔<https://www.daiwa-am.co.jp/specialreport/globalmarket/notice.html>〕

(注3) 海外の指数は、基準価額への反映を考慮して、現地前営業日の終値を採用しています。

(注4) 指数値は、指数提供会社により過去に遡って修正される場合があります。上記の指数は直近で知り得るデータを使用しております。

(注5) 株式先物比率は買建比率－売建比率です。

《運用経過》

◆ 基準価額等の推移について

【基準価額・騰落率】

設定時：10,000円 償還時：8,680円11銭 騰落率：△13.2%

【基準価額の主な変動要因】

フィリピン株式に投資した結果、基準価額は下落しました。フィリピン・ペソの対円での上昇(円安)はプラス要因となったものの、フィリピン株式市況の下落がマイナス要因となりました。くわしくは「設定以来の投資環境について」をご参照ください。

◆ 設定以来の投資環境について

○ フィリピン株式市況

フィリピン株式市況は下落しました。

フィリピン株式市況は、当ファンド設定時から2018年初めにかけて、税制改革の進展や政府のインフラ投資を好感して、上昇しました。その後11月にかけては、米中貿易摩擦が警戒される中で、インフレ率上昇や経常赤字拡大への懸念などから軟調な推移となりましたが、年末にかけては、米国の早期利上げ打ち止め観測を背景とした新興国からの資金流出懸念の後退などを受けて、値を戻す展開となりました。2019年は、中間選挙におけるドゥテルテ大統領派の圧勝や米国およびフィリピンの利下げ期待が高まった局面では上昇したものの、米中通商協議に対する警戒感や香港情勢の緊迫感が高まった局面では下落するなど、方向感のない展開となりました。2020年は3月にかけて、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大やマニラ首都圏の都市封鎖措置などを嫌気して下落しましたが、その後はフィリピン政府や中央銀行による経済対策を受けて反発したほか、秋以降はワクチンの普及による世界経済の正常化期待を背景に上昇しました。2021年は、米国長期金利の上昇懸念などから下落して始まったものの、その後は持ち直し展開となりました。2022年初めから償還期末にかけては、ウクライナ情勢の緊迫化に伴う原油価格の高騰や米国の金融引き締め加速懸念などが嫌気され、下落しました。

○ 為替相場

フィリピン・ペソは対円で上昇しました。

フィリピン・ペソは、当ファンド設定時より上昇して始まったものの、2018年に入ると、輸入増加による貿易赤字拡大への懸念などから下落(円高)しました。2018年4月から2019年末にかけては、フィリピン中央銀行の利上げ姿勢への転換などを背景に、緩やかな上昇基調で推移しました。2020年初めは、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大懸念から下落したものの、すぐに持ち直しその後は小動きとなりました。2021年前半は、米国長期金利の上昇などを背景に円安米ドル高が進行する中、フィリピン・ペソも対円で上昇しました。その後、フィリピンにおける新型コロナウイルス感染拡大が嫌気され対円で下落する場面もあったものの、年末にかけてはワクチン接種の進展や経済活動の正常化期待から反発しました。2022年は、日米の金融政策のかい離や金利差拡大を受けた急速な円安米ドル高の進行を背景に、フィリピン・ペソも対円で上昇しました。

◆ 信託期間中の運用方針

当ファンドの運用にあたっては、個別企業選択を重視し、長期的な利益成長性が高いと見込まれる銘柄を中心に投資して、ポートフォリオを構築します。

◆ 信託期間中のポートフォリオについて

当ファンドの運用にあたっては、個別企業選択を重視し、長期的な利益成長性が高いと見込まれる銘柄を中心に投資して、ポートフォリオを構築しました。

セクター別では、銀行や不動産事業などを傘下に持ち、中長期的にフィリピン経済の高成長を享受できると見込まれる複合企業を中心に資本財・サービスセクターや、貸出残高の拡大が期待される銀行大手を中心に金融セクターを高位に組み入れました。

個別銘柄では、中間所得層の消費拡大の恩恵を受ける不動産大手のSM PRIME HLDGS(不動産)、不動産開発で長年にわたる実績を持つAYALA LAND INC(不動産)などを高位に組み入れました。

◆ ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の評価または目標基準となるベンチマークを設けておりません。

当作成期の当ファンドの基準価額と参考指数の騰落率は、「当作成期中の基準価額と市況等の推移」をご参照ください。

フィリピン株式マザーファンド

■ 1万口当りの費用の明細

| 項 目 | 当 期 |
|--------------------------|-------------------|
| 売買委託手数料 (株式) | 34円 (34) |
| 有価証券取引税 (株式) | 61 (61) |
| その他費用 (保管費用) (その他) | 19 (12) (7) |
| 合 計 | 114 |

(注1) 費用の項目および算出法については前掲しております項目の概要をご参照ください。

(注2) 項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

■ 売買および取引の状況

株 式

(2022年2月23日から2022年8月19日まで)

| 外 国 | 株 数 | 買 付 | | 売 付 | |
|-------|-------------------|------------------|------------|-----------|-----|
| | | 株 数 | 金 額 | 株 数 | 金 額 |
| フィリピン | 百株 | 千フィリピン・ペソ | 百株 | 千フィリピン・ペソ | |
| | 3,150 (981.22) | 5,898 (△ 282) | 103,348.06 | 388,658 | |

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) ()内は株式分割、合併等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

(注3) 金額の単位未満は切捨て。

■ 主要な売買銘柄

株 式

(2022年2月23日から2022年8月19日まで)

| 銘 柄 | 当 期 | | | 期 | | | |
|-----------------------------|----------|-------------|----------|--------------------------------------|---------------|---------------|---------|
| | 株 数 | 金 額 | 平均単価 | 銘 柄 | 株 数 | 金 額 | 平均単価 |
| JOLLIBEE FOODS CORP (フィリピン) | 千株 15 | 千円 8,099 | 円 539 | SM PRIME HOLDINGS INC (フィリピン) | 千株 1,128.3 | 千円 100,630 | 円 89 |
| NICKEL ASIA CORP (フィリピン) | 300 | 5,173 | 17 | BDO UNIBANK INC (フィリピン) | 304.4 | 88,862 | 291 |
| | | | | INTL CONTAINER TERM SVCS INC (フィリピン) | 162 | 72,029 | 444 |
| | | | | METROPOLITAN BANK & TRUST (フィリピン) | 569.91 | 67,229 | 117 |
| | | | | AYALA LAND INC (フィリピン) | 1,098.5 | 66,424 | 60 |
| | | | | AYALA CORPORATION (フィリピン) | 43.61 | 64,468 | 1,478 |
| | | | | SM INVESTMENTS CORP (フィリピン) | 31.43 | 60,997 | 1,940 |
| | | | | PLDT INC (フィリピン) | 11 | 44,797 | 4,072 |
| | | | | BANK OF THE PHILIPPINE ISLAN (フィリピン) | 211.335 | 44,638 | 211 |
| | | | | JOLLIBEE FOODS CORP (フィリピン) | 88 | 44,229 | 502 |

(注1) 金額は受渡し代金。

(注2) 金額の単位未満は切捨て。

■組入資産明細表

最終期末における有価証券等の組み入れはありません。

外国株式

| 銘柄 | 期首 | | 業種等 |
|------------------------------------|----------|-----------|----------------|
| | 株数 | | |
| | 百株 | | |
| (フィリピン) | | | |
| MONDE NISSIN CORP | 3,000 | | 生活必需品 |
| SOLAR PHILIPPINES NUEVA ECIJA CORP | 19,000 | | 公益事業 |
| AYALA LAND INC | 10,985 | | 不動産 |
| CENTURY PACIFIC FOOD INC | 1,961 | | 生活必需品 |
| PLDT INC | 110 | | コミュニケーション・サービス |
| METROPOLITAN BANK & TRUST | 5,699.1 | | 金融 |
| MANILA ELECTRIC COMPANY | 150 | | 公益事業 |
| SM PRIME HOLDINGS INC | 11,283 | | 不動産 |
| BANK OF THE PHILIPPINE ISLAND | 2,113.35 | | 金融 |
| AYALA CORPORATION | 436.1 | | 資本財・サービス |
| JG SUMMIT HOLDINGS INC | 3,195.13 | | 資本財・サービス |
| JOLLIBEE FOODS CORP | 730 | | 一般消費財・サービス |
| UNIVERSAL ROBINA CORP | 558.8 | | 生活必需品 |
| INTL CONTAINER TERM SVCS INC | 1,620 | | 資本財・サービス |
| ABOITIZ EQUITY VENTURES INC | 2,240 | | 資本財・サービス |
| GLOBE TELECOM INC | 59.7 | | コミュニケーション・サービス |
| SM INVESTMENTS CORP | 314.3 | | 資本財・サービス |
| BDO UNIBANK INC | 3,044 | | 金融 |
| METRO PACIFIC INVESTMENTS CO | 7,000 | | 金融 |
| ROBINSONS LAND CO | 4,616 | | 不動産 |
| NICKEL ASIA CORP | 4,000 | | 素材 |
| GT CAPITAL HOLDINGS INC | 273.45 | | 資本財・サービス |
| D&L INDUSTRIES INC | 1,749 | | 素材 |
| ROBINSONS RETAIL HOLDINGS IN | 283.9 | | 生活必需品 |
| WILCON DEPOT INC | 3,695 | | 一般消費財・サービス |
| INTEGRATED MICRO-ELECTRONICS | 0.01 | | 情報技術 |
| AC ENERGY CORP | 8,300 | | 公益事業 |
| CONVERGE ICT SOLUTIONS INC | 2,800 | | コミュニケーション・サービス |
| ファンド合計 | 株数 | 99,216.84 | |
| | 銘柄数 | 28銘柄 | |

■投資信託財産の構成

2022年8月19日現在

| 項目 | 償還時 | |
|--------------|---------|-------|
| | 評価額 | 比率 |
| | 千円 | % |
| コール・ローン等、その他 | 486,048 | 100.0 |
| 投資信託財産総額 | 486,048 | 100.0 |

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

■資産、負債、元本および基準価額の状況

2022年8月19日現在

| 項目 | 償還時 |
|-------------------|--------------|
| (A) 資産 | 486,048,684円 |
| コール・ローン等 | 486,048,684 |
| (B) 負債 | 2,000,399 |
| 未払解約金 | 2,000,000 |
| 未払利息 | 399 |
| (C) 純資産総額 (A - B) | 484,048,285 |
| 元本 | 557,651,972 |
| 償還差損益金 | △ 73,603,687 |
| (D) 受益権総口数 | 557,651,972口 |
| 1万口当り償還価額 (C / D) | 8,680円11銭 |

* 期首における元本額は1,131,476,328円、当作成期間中における追加設定元本額は1,093,614円、同解約元本額は574,917,970円です。

* 償還時における当マザーファンドを投資対象とする投資信託の元本額：フィリピン株式オープン 557,651,972円

* 償還時の計算口数当りの純資産額は8,680円11銭です。

* 償還時の純資産総額が元本額を下回っており、その差額は73,603,687円です。

■損益の状況

当期 自2022年2月23日 至2022年8月19日

| 項目 | 当期 |
|------------------------|---------------|
| (A) 配当等収益 | 9,674,959円 |
| 受取配当金 | 9,680,775 |
| 支払利息 | △ 5,816 |
| (B) 有価証券売買損益 | △ 76,899,294 |
| 売買益 | 103,282,031 |
| 売買損 | △ 180,181,325 |
| (C) その他費用 | △ 1,893,893 |
| (D) 当期損益金 (A + B + C) | △ 69,118,228 |
| (E) 前期繰越損益金 | △ 63,309,815 |
| (F) 解約差損益金 | 58,917,970 |
| (G) 追加信託差損益金 | △ 93,614 |
| (H) 合計 (D + E + F + G) | △ 73,603,687 |
| 償還差損益金 (H) | △ 73,603,687 |

(注1) 解約差損益金とは、一部解約時の解約価額と元本との差額をいい、元本を下回る場合は利益として、上回る場合は損失として処理されます。

(注2) 追加信託差損益金とは、追加信託金と元本との差額をいい、元本を下回る場合は損失として、上回る場合は利益として処理されます。